大月人物伝 歴史探訪

北大に学び大月に生きた星野家当主

星野　奇（くすし）

その後、推されて全国納豆協同組合連合会副会長となった。昭和五十年同会発行の「納豆沿革史」編纂委員長を務めた。その納豆「富士納豆」は七十年を経た現在孫の星野喜忠に継承され郡内や東京の一部で販売されている。

■下花咲水道組合（聖泉会）

昭和二十年八月、太平洋戦争は終戦を迎え、戦時中「大政翼賛会」で活動していた奇は公職追放の処分を受け、当時は星野家にとっても大変苦しい時期であったという。下花咲では昭和十六年頃より悪疫が流行り、その原因は堰の水を飲み水にも洗濯にも使用することにあったため、下花咲区民は相談して昭和二十年十月「下花咲水道組合」を設立、星野家の大井戸を水源として区内七箇所に共同水栓を設け炊事に使用した。このため以来悪疫が流行ることは無かった。その後　市水道が敷設されたことから昭和三十八年末同組合は解散した。十八年間に亘り下花咲区民五百人の生活の源泉となり、また疫病を阻止した水道事業についてこれを永久に伝えられるよう星野家の井戸に隣接していた水源タンクは主柱を残して聖泉会の記念塔として星野邸内に保存されている。

■大月市酪農業協同組合

昭和二十三年頃から全国的に酪農への熱が高まり、郡内でも養蚕に加えて酪農をする農家が徐々に増えてきた。それに併せて各地の町村でも酪農組合が結成されたが、大月市の市制移行により昭和三十四年「大月市酪農業協同組合」が大同団結結成された。

大月酪農組合職員のみなさんと（昭和38年）

初代組合長は推されて星野　奇、約百十軒の酪農家が参加、乳牛頭数は最盛時三百五十頭を数えた。牛乳は当初山口明男氏の山口牛乳店に組合員各人がリヤカーや自転車で運び込んでいたが、やがて市内各地に集乳所が作られ、昭和四十八年頃には冷却装置四十八機を備えた集乳設備が花咲の酪農組合事務所近くに完成、大月市のみならず鳴沢や忍野村などからも集められた牛乳は主に森永乳業⑭多摩工場に出荷された。

奇はその後山梨県酪農協議会会長を務め、大月酪農組合長は昭和四十二年小俣国廣氏に継承された。小俣国廣氏子息静男氏が六十頭以上を飼育したが、大月の酪農はその後従事者の高齢化などによって徐々に減少の道をたどり、平成十年組合は解散。平成十九年まで酪農の灯を灯しつづけたのは七保町奈良子の佐藤長平氏で、大月市最後の酪農家となった。

大月の酪農については奇が北海道の大学で学び、道内で酪農事業を見聞していたことと深い関連があったと思われる。（酪農組合事務所に組合発足時より永年に亘って勤められた鳥沢中野の鈴木利一氏から貴重な話しをお伺いしたことに感謝申し上げる。）

■花咲富士見台団地造成

昭和三十七年当時の大月市長井上武右衛門氏は、大月市民病院を花咲和原地区への移転計画と併せて堂地地区を含めた住宅団地を開発し住宅難を緩和したいとの考えをもっておられた。

昭和三十八年当時下花咲区長星野　正氏に市会議員や大月商店街有志から住宅団地造成について懇請があった。これについて当初花咲団地開発協議会として発足し大月信用金庫理事長和光政雄氏が会長となったが、花咲富士見台団地造成委員会と改称され、星野　奇が委員長となった。四十数名の地主は大月の有志や施工者の富士観光開発⑭と協議を重ね、四十年九月起工四十一年十月完工したが、約四万坪の地主達は祖先から耕作されてきた伝来の土地を住宅団地に変更することは容易に諒承されなかったという。富士山を望む高壮な富士見台地区居住者は今や二百世帯以上に及び、泉下の奇も喜んでいることであろう。この記念碑は大月中央病院に登る坂の左手半ばにある。

■大月ロータリークラブ

昭和三十八年（一九六三）大月に県内三番目のロータリークラブとして「大月ロータリークラブ」が設立された。初代会長は元大月市長井上武右衛門氏、奇はこの創設にかかわり第三代会長を務めた。市内の有力者が数多く集う慈善親睦団体として幅広く活動を展開し約五十名の会員を擁するまでになった。奇はその後大月ロータリークラブが所属する国際ロータリー第二六二〇地区第四分区代理（ガバナー補佐）を務め、デンバーの世界大会に参加。大月ロータリークラブにはその後、息子三郎・孫喜忠が入会、それぞれ会長を務めている。

昭和三十七年、黄綬褒章を、同四十一年春、勲五等双光旭日章を受章の栄に浴した。奇は「富士山の見えるところに住みたい」と、自身がその事業に委員長として関わった富士見台の一角に別寓を構え老妻照子とともに毎日富士山を家から眺めるという生活をして穏やかな晩年をすごした。昭和五十九年（一九八四）三月十九日没。享年八十八歳。

清廉潔白にして白髪温厚な紳士で地域の誰からも親しまれた人であった。

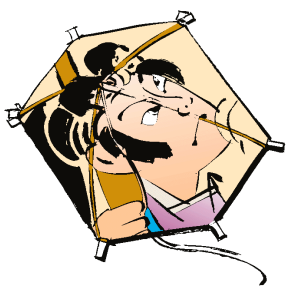
参考文献

心に舞う四「花咲本陣」甲州道中星野家

「瓔珞みがく」東京エルム会寮歌委員会編

歌集「瓔珞みがく」星野照子

「納豆沿革史」全国納豆協同組合連合会

執筆者　井上　豊

協力者　仁科　義民